



千葉県 TEACCH プログラム研究会

2025 年 10 月 26 日(日)第 135 号

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センター C A S 内

TEL：043-227-8557



第3回 連続セミナー

「自閉症のある方へのコミュニケーション支援 ～確かなコミュニケーションをそだてよう！～」

大和しらかし会 松風園 臨床心理士・公認心理士

五味 純子 氏

(神奈川 TEACCH プログラム研究会 副代表)

9月の連続セミナーは、大和しらかし会で臨床心理士、公認心理師としてご活躍されております五味純子先生をお招きして TEACCH のエッセンスを生かした「コミュニケーション支援」についてご講義いただきました。五味先生には、昨年度にも「構造化の実際」という題で、自閉症の方がひとりのできる環境を整えることの重要性についてお話しいただきました。今回は、コミュニケーションに焦点を絞って、自閉症の方の特性を理解したうえでの支援の考え方を教えていただきました。自閉症の方に、とことん寄り添う五味先生のお話しに感銘を受けました。

1 自閉症の定義の確認（コミュニケーション面）

○目に見える具体的なものには強いが、目に見えない抽象的なことの意味理解が困難

「意味が分からず周囲への対応をする」「ピンとくることはやる」「やらないことは怠けやわがままのためではない」「意味の分からない対人関係やことばは恐怖や不安、退屈以外の何ものでもない」

→だからこそ意味の分かる支援（顕在化）が必要である。

2 コミュニケーションの定義

○コミュニケーションは特定の他者にメッセージを伝えたり、他者が伝えているメッセージを理解したりといった「伝え合う」というやり取りのこと。対人相互作用・会話のこと。

→ことばだけでなく、他者とのやり取りということが大切

○「コミュニケーション≠ことば」であり、むしろことばが邪魔することもある。

○「コミュニケーション＝意思の伝え合い」のことである。

3 コミュニケーションを育てる方向性

○育てるべきは「ことば」ではなく、「相手を意識したやりとり」という『コミュニケーション行動』である。「ことば」を意識するあまり、支援者は彼らが望んでいないことをやっている可能性がある。彼らは、言いたくても言えないことがたくさんある。

○コミュニケーションの方法は、言語性コミュニケーションよりも非言語性コミュニケーションの方が、相手を意識するという方向性は確認しやすい。

○コミュニケーションを育てることで最も大事なものは、「コミュニケーションマインド」を育てることである。→便利さや楽しさ、伝え合いたいという気持ち

○「表現性コミュニケーション（指導すること）」と「受容性コミュニケーション（構造化によること）」に分けて考える。

4 実態把握の重要性と目標設定

○コミュニケーションサンプルをとり、丁寧に対象の方の到達度を見取る。

○サンプルからの目標設定においては「文脈、形態、機能」に分けて考える。目標設定は、そのうちの一つだけを変える等、無理のない範囲で行う。その際に、決して「ことば」を目標にしない。

5 指導の実際

○自然な場所で、構造化をしたうえで、繰り返しということがポイントである。

○指導は具体的に行い、「人は助けになってくれる存在である」ことを知らせる。

○ことばを話す人の指導は、「ことばが弊害になっていないか」を考え、行動を見ることが大切。

○構造化による支援は必須である。

五味先生のコミュニケーション指導の熱量はとても強く、予定した時間では足りないほどの講義でした。まとめとして、「支援することで他者への信頼も培ってほしい」ということが、今回の講義の大きなキモであると考えます。

夏のトレーニングセミナー

8月23日（土）に、毎年恒例の実践セミナーが開催されました。前半はCAS副センター長であります田熊立先生に自立課題の考え方の講義をいただきました。後半は、協力者の方に対して自立課題を作成、実践してみても再構造化を実際に行うという充実した研修となりました。



第5回 実践セミナーのご案内

『成人期の自閉症・行動障害のある人を地域で支える体制づくり』

講師：志賀 利一 氏（特定非営利活動法人 PDD サポートセンターグリーンフォレスト理事長）

日時 12月7日（日）14：00～16：30（13：30受付開始）

場所 千葉県教育会館303会議室

編集後記

今回のセミナーで五味先生は繰り返し「自閉症の方のコミュニケーションには大きな川が流れていることを理解してほしい。コミュニケーションをとろうとするときのその方の勇気は計り知れないものである。」ということをお話しされていました。このことを胸に刻み、日々の支援を充実させるため、これからも一緒に研修を続けていきたいと思います。（文責：鏡）